



昭和はじめの八代南西部 『昭和3年姫路高等学卒業記念アルバム』

今の南八代町、西八代町あたり。村の右上に一棟、寄棟造りの姫路高等学校の官舎が見える。姫高のむこうが安室村新在家。左の山すその赤肌の所が姫高造成の上取りをしたところ。

10 昭和時代（二十三年まで）

昭和時代は激動の時代でした。世界の大恐慌、緊縮、緊縮、から始まります。六年の満州事変からは戦争、戦争。第二次世界大戦の終了とともに民主主義になって、平和になりました。

八代では四年に町裏水源地ができ、水道ができ水汲みの手間がはぶけるようになります。野里や内町の商店街に近い郊外であり、各種学校のある文教地区なので借家や邸宅が建てられます。当時の言葉で言えば「知識階級の地域」になっていきました。

二十年の姫路空襲では八代にも被害ができました。

戦後は住宅がつぎつぎ建ち、二十四年ごろ八代を十町に分け、それぞれに自治会ができます。

ここでは二十三年までの八代全体のことを記します。昭和の出来事でもその町だけに關することは中巻を見てください。



昭和はじめの八代東部 『昭和4年姫路中学卒業記念アルバム』

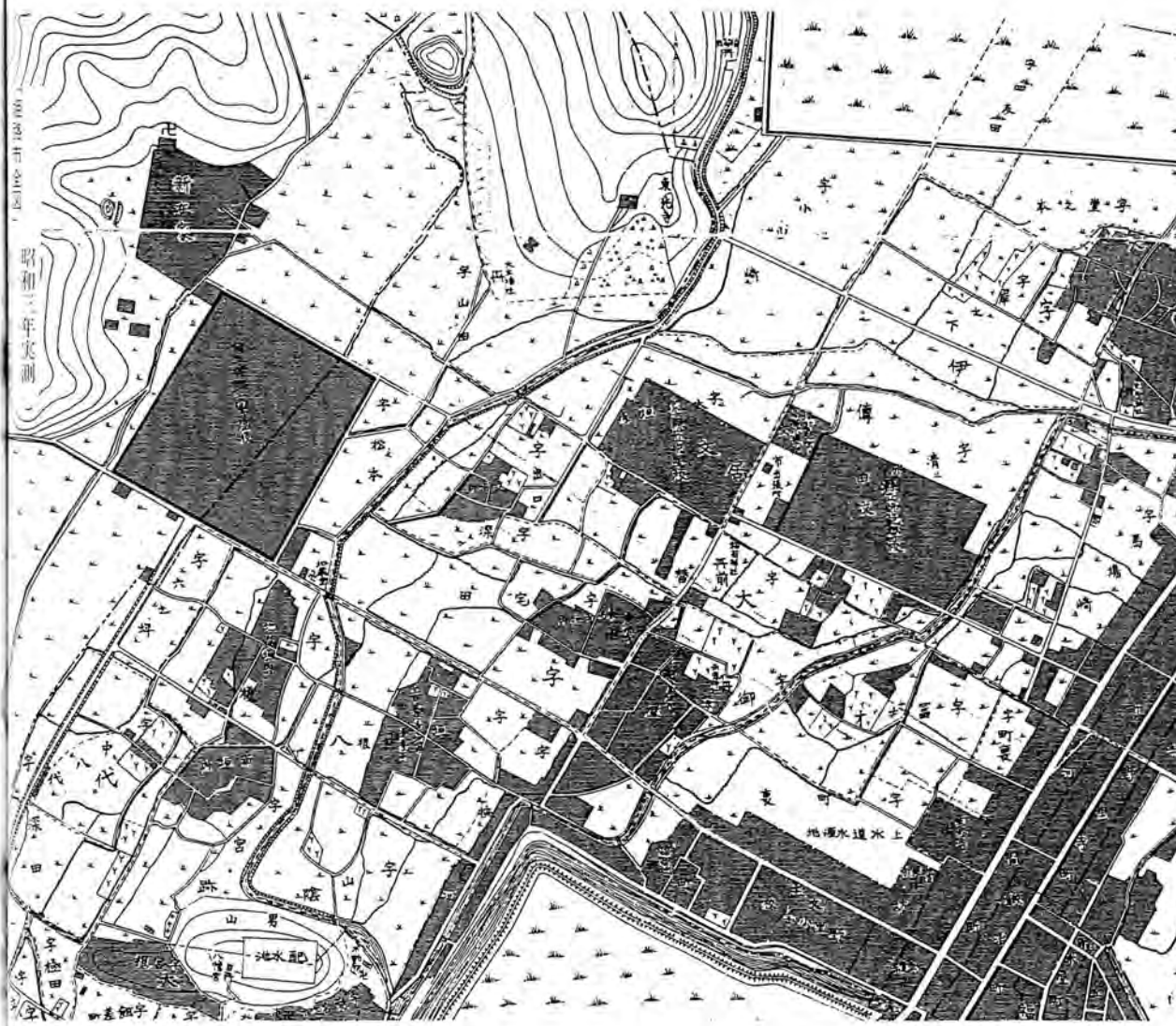
運動場のむこうに姫高の洋館官舎が二つ、屋根が白く光っている。町裏水源地も見える。校舎のむこうには東光寺の北側の白い土塀、写真の左端に雲松寺の西側の白い土塀まで見えている。

上水道を 町裏水源地は昭和四年にできま
つくりう した。当時の市域のほぼ中央に
あり、ここから汲み上げて、きれいにした
水は高さ五二丁の男山に押し上げ市内に配
水します。

姫路に水道をといて声は前からありまし
たが、初めての相談は明治四十三年、堀音吉
市長の時でした。けれども費用がかかりす
ぎるといので話はすすみませんでした。

大正三年、保城地区で市川の西岸に水源
地をつくる話を始めましたが、ここで水を
汲みあげると船場川ぞいの田の用水が少な
くなると反対されました。

大正十二年、また議論が再燃し、前回よ
りやや北、市川から船場川が分かれるすぐ
南に計画をすすめました。水源地をみつけ
るため各方面で調査したのですが、どうし
てもここ以外にないとの結論になったから
です。しかし今度もまた前と同様の反対に
あい中止せざるをえなくなりました。



昭和三年実測

町裏水源池 大正十三年十二月、野里小学
をつくる 校構内で井戸を掘ったところ、

湧水が予想以上に出て一・八尺の深さまで
掘るのに困ったという報告がありました。

また翌年一月、野里門のそばの中濠を埋
め立て、北部公設市場の造成工事をはじめ
たところ、濠の底からこんこんと湧きでて
いる所が発見されました。ここを市場の井
戸とするため四尺掘り下げようとしたところ、
またまた困ったというのです。

市役所では地下水の豊かさにおどろいて
いたところ、姫路付近の古地図(→73P)を
発見、八代字町裏を昔の川が流れていたこと
に気がきました。そこで河間町佐野九市
氏所有の田を借り試掘したところ、地下に
厚い砂礫層があり、この層に地下水を豊富
に含んでいることが分かりました。

大正十五年八月、夏の渇水期はどうかと
いうので揚水試験をしたところ、一昼夜に
四万石(七千三百L)を汲みあげても、水位
は一・一尺しかさがりません。

そこで町裏では、いくら汲みあげても地下水はかれないとの自信をえて大正十五年八月水源地に決定したのです。以上は決定までの概略ですが、この間いろいろな方面を、いろいろな方法で調査しているのです。工事を始めたのは昭和二年三月七日、竣工は同三年十二月十五日でした。

送水管を 送水管は町裏水源地で、きれいうずめる になった水を男山へ押し上げるための管です。径四寸のもの二本。水源地の西端から坊主町に出て西へ、船場川の城しろのはし北橋のそばを渡ってさらに西へ、八代東光寺町の南西角の四つ角から南に折れて大野川おおのかわを渡り男山の北斜面を上がるコースです。昭和三年四月八日から工事を始め十二月十五日におわりました。

男山配水池 昭和二年七月十六日に着工。をつくる 標高五九七の山上を七割切り取って平らにし、その跡につくりまします。その様子は写真(↓P.18)でわかるでしょう。



町裏水源地の工事 『姫路市水道誌』

町裏水源地 昭和二年三月七日から、集水ができる。管の工事を地下五〜六寸のところこに始めました。これはまだ工事中のことです。毎朝、まだ明けないうちから一日じゅう揚水したため、付近の民家の井戸がかれるさわぎがおきました。そこで市は第十師団に連絡して陸軍の水道から分配を受け、配給しました。(『姫路市水道誌』)

水源地ができ本格的に水の汲みあげが始まると、付近の家の井戸は水が少なくなり

ました。

「私の家にも掘抜井戸があり、子供でも手の届きそうなどころまで水があったことを覚えています。ある日、井戸屋がきて、井戸の中心部に鉄管を打ち込み、その上にポンプをつけました。「ポンプで水が汲めるで」と父がいました。私は長い間、便利さのためだけでポンプにしたのだと思っていました。五、六年生のころでしょうか、井戸の蓋をとって中をのぞいて見ると底だけに水があるのです。でも夏には西瓜を冷やすだけの水はありました。深さ四、五メートルでしょうか。「水源地がでけてから水が、よう引くようになったなあ」とは、これまでのおとなの会話、なるほどと思いました。」

(矢内 澄)

「御茶屋町には人家がかなりあるが、どの家の井戸も水が少なくなつて困りました。市役所から一軒あたり十円の補償金がでたので、どの家も打込井戸をつくりポンプをつけました。」

(糸田秀雄)



空から見た町裏水源地 (昭和35年ごろ)

『姫路市水道事業統計年報 昭61』

奉告文

茲ニ姫路市多年ノ懸案タリシ上水道竣工ノ日ニ遇ヒ之方式典ヲ挙行スルニ到リタルコトハ六萬市民ト共ニ欣快措ク能ハザル所ナリト雖モ固ヨリ之ヲ人爲ノ成果ト歳月ノ効果トニ歸スベカラズ
 熟々神意ノ奇シキ摂理ト加護トヲ惟ヒ恭シク參殿シテ奉告ヲナス
 昭和四年四月十七日
 姫路市長從五位 滋岡長彦

▲通水式の前日、四月十七日、市内の産土神十五社へ市長代理を派遣して、上の奉告文を読み上げました。八代の大歳神社へも参拝しています。

現在の 四つの井戸から一日一万五千

町裏水源地 立方尺の水を汲みあげていま

す。また昭和二十九年十一月から船場川の上流の保城から水を取り、町裏水源地に送られてきた五千立方尺の水を浄水していま
 す。それで沈殿池を一つ作りました。

二台のポンプで男山に押し上げ、一台で野里寺町や鍛冶町方面に圧力をかけて送っています。



給水宣伝ポスター

『姫路市水道誌』

砂の入れかえ作業（平成2.9）

濾過池の底の砂には藻が生えて、水が通りにくくなるので入れかえが必要。





男山の山頂をけずっている

『姫路市水道誌』

水道史年表

明治	20	わが国最初の近代式水道が 横浜にできる
"	40.4	第10師団城北特科隊の白国 簡易水道起工 12月竣工
大正	3.7	保城の予定水源地を試掘 実施見送り
"	4.6.21	姫路駅専用水道竣工
"	5.11	第10師団鷺の清水水道起工 6年5月竣工
"	12.3	保城字大樋門に水源地を市 会が議決 実施見送り
昭和	2.3.7	町裏水源地着工
"	2.7.6	起工式
"	3.12.15	通水開始
"	4.2.22	給水開始
"	4.4.18	完成・通水式
"	29.11.1	保城で船場川表流水取水式

八代東部の田は田植えのとき、田に水を入れながらしないと途中で干上がって田植えができない。いつも用水路から水を流しこんでおかないと、半日で干上がる。水源地ができてからひどくなったという。

葬式の様子

昭和五年、祖母がなくなり
ました。私は小学二年生。

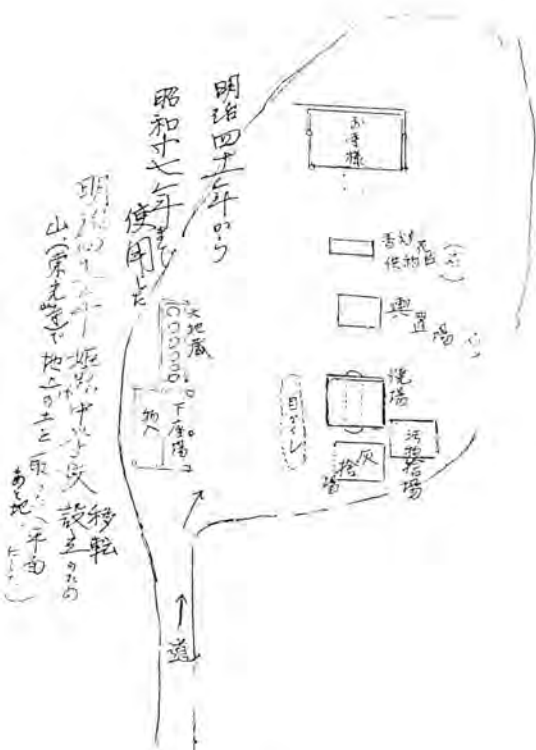
ソウレン（葬式）には「盛り花」といって、蓮の花や、金銀で作った穂のような物を三方に挿し、それを持った人が前に、おでこに三角の紙をつけ、白い薄い羽織を着て、幽霊のようなかっこうの人たちが輿をかつき、私はそのすぐあとに、青竹の先に白い提灯をつけたのを持って行きました。私のうしろにも続いて行ける行列が、墓場の中を通っている谷の道を上がって行きました。

まもなく小屋（輿をしまっておくのだそうです）が見え、かたわらの六地藏さんの前に一口ソクの火が揺らいでいました。あたりがひらけると、そこは焼き場です。石の上に輿を乗せ、その前で朱塗のイス（曲塚）に腰かけた坊さんがお経、
キニヨー ムニヨー ジュニヨーラーイー
が谷に響きます。やがて焼香が始まり、焼香をすませた人から坂を下りていきます。数人の坊さんも説経の途中で焼香をして帰

っていきました。

小屋の廂の下（下座場）では、輿を担いできた白い羽織の人々が、ワラ束を膝に敷き、両手をついて、頭を下げています。

お経も終わり、坊さんも帰ると、輿をかきいで三回まわりました。あとで聞いたのですが、これは霊に方角を迷わせ、帰ってこないようにするためだそうです。それから、石で囲った浅い穴の中へ棺桶を据え、家族が火をつけます。



新しく造った焼き場
渡辺弥市 画
山裾から明治41年に移したもので、
いまスポーツ広場になっている。

昭和の初めによく歌われた歌の一つ

姫路節

1 見たか 聞いたか 姫路の城はヨロ

やぐら七重にヨロ

雲は八重

空につきでた だて姿

ハリマエ キタナラ ヨツテクタン

ヒメジノ オシロハ ニホンイチ

2 つほみ十九は 姫山ぎくらヨロ

ちよいとあちらはヨロ 男山

花もよびあう 色もよう

姫路市民謡調査記録

「お前も（お婆さんに火を）つけたげよ」
父のいうままに、ちよつとつけました。

翌日は朝のあいだに骨あげ。数人がまわりから見まもるなかを、父が箸で灰の中から、白くなった骨を探し出します。

「ナムアミダブツ ナムアミダブツ」、「これが咽仏さん」、「これが頭の皿やで」と父がいました。

（矢内 澄）

姫路高等小学校

昭和十四年、南八代（今の城乾小学校の地）に校舎が

新築され、姫路城内三の丸にあつた高等小学校が移転してきました。

当時の小学校は尋常科六年（義務教育）と高等科二年（自由）でした。姫路市では市内の各小学校にある高等科を一つにまとめて高等科だけの高等小学校をつくっていました。それで一般に「単独高等小学校」、さらに略して「単独」と言っていました。

「けれどもこの学校には高等科三年が一学級あり、この学級には荒川、阿保、前之庄、安志と姫路市周辺からも通学し、なか

には師範学校を受験する人もいました。

一年生から体操の時間には模型の銃で射撃練習をしました。」

（安倍房夫）

「昭和十七年ごろは、三年生を「一学級」と呼び、二年生は「二学級」九学級」、一年生は「十学級」十八学級」、女子学級は「十学級」と呼んでいました。

（寺村芳雄氏 野里在住）

兵隊さんに 昭和六年（一九三二）九月十八日、満州事変が起こります。

日本軍は破竹の勢いで半年間で満州全部を占領、翌年三月一日に満州国独立宣言がでます。姫路師団からも行きました。

その兵隊さんを励まし、なぐさめる慰問の手紙を、どこの学校でも作文の時間に書きました。その手紙の一つをみましょう。当時どんな教育がされていたか、国民の気持ちに分かりますから。

道の右が姫路高等小学校

以前このあたりは畑地で、牛飼場もあつた。正面はるか向こうは官立姫路高等学校。この道は城西6号線、姫高生は十分道路と言つた。高橋コレクシヨン 県立歴史博物館提供



出征の兵士様方へ

高二 小出 勝

世界平和のため、否、我が帝國の權益擁護のため、嚴寒膚をさす北滿の荒野に於て、重大な守備の任に當つて居られる皆様に対し、厚く御禮申し上げます。

皆様は我が帝國軍人としての華とも言ふべき大和魂即ち、大和民族のためには一命を捨て、も、祖國に報ひる軍人精神を發揮して、皇威を海外に轟かし、又九千萬の同胞が安らかな生活をして行く事が出来るのも皆滿洲にて奮闘して居られる皆様方の偉大なる御力によるものと、深甚の感謝を捧げて居ります。

國民は滿洲事變が突發して以來、毎日の新聞に、又は、號外、雜誌、特別ニュース等に眼をひかれ、或は血を沸かし、或は悲憤の情を漏らしたり、或は感激の涙にむせて居ります。

而し皆様の熱烈なる愛國心と、國民の熱誠なる後援とによつて平和的に解決せられ、三月一日には大滿洲國といふ獨立國が宣言せられて、新國家を建設し、我が國の理想郷とも言ふべき新天地が此處に生まれましたのは、ほんとに何といつてお喜びしてよいかわかりません。だが、その滿蒙こそ

は多くの勇士の骨を埋め、血を流して築き上げた土地であります。だから我等小國民も將來は、我が國の生命線たる滿洲に移住して、産業を振興し立派なる世界を作り、共に帝國の發展するやうに努めやうと、今から大なる希望を抱いて一心に勉強に勵んで居ります。

茲に謹んで感謝の言葉を申し上げると共に、皆様の御健闘をお祈り致します。

〔『学校と家庭』13 姫路師範付属小学校発行〕

傷病兵を慰問
昭和七年一月、上海でも戦

外ひょうこうちんの小さな村、廟行鎮ひょうこうちんを占領するため、中

國軍がはりめぐらしていた鉄条網てつじょうもうを三人の兵士が爆弾を抱えて近づき、爆破しました。

むろん三人の体はこなごなに飛び散りました。わが軍は村を占領できました。三人は

「肉弾三勇士」とたたえられ、歌もつくられます。

「廟行鎮ひょうこうちんの敵の陣……」

……二十一日の午前五時

姫路師範付属小学校ではそれを劇にして衛戍病院えいじゆびやん（今の国立病院）で傷病兵に見てもら

高二 高等科二年生のこと。今の中学二年にあたる。小学校には尋常科六年と、高等科二年があつた。

昭和十年、三年生の卒業証書



いました。

私（尋常科四年）も三勇士の一人に指名され、数日間練習。病院の大広間いっばいの白衣の勇士の前で「肉弾三勇士」の歌を合唱。つづいて劇、

「爆破する者、誰かおらんかー」

「ハーイ」

私も爆弾を抱えて舞台の袖へ突っ込みました。

「爆破成功」「全軍突撃」「占領」

「バンザーイ バンザーイ」

またもや歌の後半を大合唱。

「我等が上に載くは、天皇陛下の大稜威うしろに負うは国民の

意志に代われる重き任」

大広間も割れるほどの拍手をうけました。

（矢内 澄）

八代の産業

農業

米作 一反の平均収穫高 八代 三石二斗、伊伝居 三石一斗二升、新在家

斗、伊伝居 三石一斗二升、新在家



熱狂、歓呼に送られて姫路駅を出発（昭6.12.21）
『満州事变出動記念アルバム』

二石五斗。船場川の水を入れる伊伝居、八代は年中水が切れることなく、かつ東紡の排水により土が肥え、収穫が多いのである。

麦作 一反の平均収穫高 八代 二石五斗、伊伝居 二石一斗、新在家 一石七斗。麦は米の裏作として十一月頃蒔

七斗。麦は米の裏作として十一月頃蒔

凱旋式に歌った歌

三年間、満州各地に転戦した姫路の連隊は昭和九年五月、姫路に帰還した。凱旋兵士を迎える式が城南練兵場で行われ、各学校も出席して練兵場のまわりをかこみ次の歌を歌った。思いだしたままなので、まちがいがあるかもしれない。

一、白鷺の城に日は映えて

松籟歓呼の声に和し

将士が労をねぎらわん

きよう凱旋のわが勇士

二、勲は高し満蒙に

仇なす敵匪討滅の

重任おえて凱旋す

郷土の誉れわが勇士

三、炎熱猛暑よく耐えて

ああ転戦の三星霜

皇軍永久に燦として

歴史を飾るわが勇士

（西納、矢内）

き、翌年六月頃刈り取る。麦の肥料は

一反に付きだいたい金肥二、三町てい

どで他は下肥を施している。市街に近

いから下肥の汲み取りにつごうがよく、

たいていの田にはその壺が設けられて

いる。その汲み取りに行く労力は大き

いが、経済的に恵まれてるといわな

ければならぬ。米作において金肥、下

肥の割合は六対四であるが、麦作では

製粉業

船場川に水車をかける製粉場は伊

伝居に一戸、八代に勝岡、山本、田麿の

三戸あり、原料の小麦を付近の農家や仲買人

から仕入れ、製品を素麵製造業者に販売

している。

田麿水車では一貫作業として素麵、干

しうどんを製造し、北海道、九州、満州、

朝鮮に売り出している。

ゴム工業 山野井に蒲田、飯塚の二つ、八

代に萬代ゴム工場があつて各種靴下を製

造し、大阪、神戸に販売し、輸出商を経

て海外に出している。

コンロ製造業 渡辺コンロ屋あり。花田村

から粘土を、石川県から硅藻土を仕入れ

コンロ、コタツ、火消壺を製造し、市内

や十里内外に販売。硅藻土コンロは県下

各地、岡山、鳥取、鳥根の各県に送られ

る。(姫路郷土地理「昭和十五年 多田初治

数川惣太郎共編 城北尋常小学校発行)

八代の商店

前項の本には八代には四十戸の商店があると書いてありま

す。昔から八代は農村だったが、昭和十五

年までには商店が四十軒になっていたこと

が分かります。だがこの本には、

井上商店 梅ヶ谷地蔵前

日笠文具店 中学校前

の二つが書いてあるだけで、その他の店の

名は書いてありません。そこで古い電話帳

にのっている店だけぬきだして、どんな店が

あつたかを調べてみました。(町名は今のもの)

ドー ドレ ミソー
ひー わは えてー
ミー ミレ ドレー
こー えに わしー
ミー レド ラドー
ねー ぎら わんー
ラー ソラ レドー
わー が ゆうしー

ラー ラ ソ ミ
しー ろに
ドー ド ラ ソ
かー んこの
ラー ドレー
ろー うをー
レド ラソ
せー んの

ソー ソ ソ ソ
はー くろの
ラー ラ ドレ
しょうらい
ミー ソ ソ ソ
しよ うしが
ラー ドレ ミ
きよ うがい

この歌は佐用郡大広小学校でも教え、
除隊して帰ってきた郷土出身者を姫
新線三ヶ月駅でむかえた。(岡本文彦)

金肥 化学肥料
下肥 人糞と尿

町内会ができる

「私はどんな風の吹きまわしか、二十年の教員生活をやめて(昭和十四年四月)市役所勤務に変わりました。市役所では若い働き盛りの方々は次々おちしよろ応召されて、補充は若い女性しかない。就職その日から町内制について種々教えられて、各町村へ出ていくのです。城北、水上、安室は住んでいる土地であるし、教員をした所だし、友達知人も多いし、親戚もあるので都合だと受け持ちました。」

当時の八代町内会は十四組 五六隣保
隣保は向三軒両隣 十世帯前後

昭和十四年に組織された

会長 八木孫次郎

副会長 田藤正夫 (仮) 渡辺弥市

会計 矢内新太郎

事務員 小林、伊賀田 (女二人)

事務所 八代俱樂部 机 腰掛 書類戸棚

畳の間は会合に使用」

(渡辺弥市)

右の文で町内会発足当時のようすがわか

ります。けれども一組ほどのあたりだったか、何組はどこだったかについては、もう分からなくなっていました。

住民の意志でつくった町内会も昭和十五年九月、内務省訓令第十七号「部落会町内会等整備に関する訓令」で法制化されました。その訓令は

「隣保団結の精神に基き、市町村内住民の組織を結合し、万民翼賛の本旨に則り……」
というものです。

その仕事は

「世帯票の整理 転出入の証明

配給通帳の検印 無所得の証明

居住証明 納税告知書の配付

配給 市よりの通知の伝達(回覧板)

税金の徴収 査察(大掃除)

各種調査報告 消毒剤の散布」

(姫路市自治振興会の歩み)

と、市役所のような仕事をする事になりました。

隣保では隣保長の家に集まり、市役所か

昭和二四年以前、市役所に自治振興課があり、西村校長が課長だった。

(坪田 恒雄)

らの通知が徹底するようにと、よく会合がもたれました。

「うちの隣保の退役軍人陸軍中將の園藤さんは、会の始まる五分前には必ずこられ、遅刻は決してなさらない。上座にすわって、ちやんとした姿勢でおられるのには皆感心したものだ。」

(矢内たつゑ)

「会の始まる待ち時間に『どうやら徐州で日本軍が負けて逃げたらしいだつせ』と誰かがいいだした。居合わせた人々は、聞き入り、心配もした。ところがその後、警察が隣保へ来て、『だれがそんなこと言うた』と、ひとりひとりに聞く。母も呼び出されてたずねられたが、「知りまへんなあ、知りまへん」で帰してもらたそうだ。」(岡本文彦)

食料が不足 日中戦争がながびくにつれ、**食料がだんだんたりなく**なつてきます。そのときのように見ましよう。**米の配給制** 大人一人 一日 二合三勺

老人子供

一合二勺

(これをもとに一家の受ける配給米の量をきめ

る)

台帳 家族の氏名 生年月日

計何升何合何勺

隣保が集まって作成

隣保長―組長―町内会長へ提出

生産者(農家)

保有米 農区長、協議員により決定

供出米 市から各町の収穫高決定 通知

四斗俵に入れて検査を受け、農協の倉庫

へ納入。はじめは各農家が運んでいたが、

のち各部落の要所に集めて検査をうけ、

農協の車で倉庫へ。

供出制 実施にうつすのがたいへん、麦も

供出制になる。方法は米に準じて保有麦

は計算しない。

農家 肥料の配給が少なくなり鶏糞など高

値になる。自給肥料、堆肥などを作る。

下肥の取り合いになる。汲み取り料として白米を出す。

軍隊、学校、会社などは、汲み取りの入

札をしてきめる。

隣組

岡本一平作詞 / 飯田信夫作曲
飯田信夫編曲 『戦前昭和歌謡』

徳山 穂

とんとん、とんからりと 隣組
格子を開ければ、顔なじみ

回して頂戴 回覧板

知らせられたり 知らせたり(ハイ)

とんとん、とんからりと 隣組

あれこれ面倒 味噌醬油

ご飯の炊き方 垣根越し

教えられたり 教えたり

隣組は昭和一五年にスタートした大政翼賛会の下部組織に組み込まれた。漫画家の岡本一平作詞のこの歌はNHKが国民歌謡にとりあげ徳山穂がラジオで「ハイ」と元気で明るい指導をして好評だった。

買い出し やみ米、いも、その他の食料品
なんでも買いあさる。

米を手に入れるためには着物、日用品、
小道具なんでも持って行く。農繁期に働
きに行つて米をもらつてくるとか。

増産 練兵場もイモ畑に変わり、学校の運
動場も空き地も川端川原も野菜が作られ
た。どんな土地でも開墾された。

物資不足 食料だけでなく、日常用品も戦
争に使う資材もだんだんたりなくなつて
きました。

キップ制 衣料キップは総点数二十点。タ
オル一すじ一点。

配給制 煙草、酒、砂糖、塩など配給のと
きには早くから並んだ。

特別配給は葬式、結婚式するとき。

戦時公債 町内会に割当、申込で消化して
いたが、度がかさなつて消化できなくな
ると各家の収入を予測し、市民税などを
しらべてきておいて買つてくださるよう
お願いする。…むつかしくて困つた。

供出(回収) 金の指輪、金時計などは指定

店に持参して品名、何グラム、価格、領
収書を持ち帰つて提示。町内会から(役所
へ)報告。

銅、シンチュウ、カラカネ。せんとく火
鉢、学校の二宮尊徳像、神社の神馬、お
寺の釣鐘など供出。(高級芸術品、東京・上
野の西郷さん、二重橋前の楠木正成像など除く)
鉄ごうし、窓わくなど町内の一かしょへ。
または市の指定する場所へ集める。

(渡辺弥市)

社会のようす

防空壕づくり、退避訓練、
戦勝祈願、千人針、百社参
り、千社参り、防空訓練、消火訓練、バケ
ツリレー、火たたき、竹槍訓練。

昭和一五年、当時私は師範学校の

生徒で、教育実習のうちの一週間養
父郡の高柳村の協和小学校(いま八
鹿町)へ行きました。部落会のこと

も知つておくように、とのことで実
習生一同集会所で傍聴。供出米の説
明のあと農民の一人が

「米を作つとる者が、米を食べられ
んようになるなんて！」
の発言が印象的でした。(矢内 澄)

国防婦人会

別に愛国婦人会もある。
昭和一七年、統合して大日本婦人会
となる。

愛国婦人会のタスキ





【国防婦人会】

タスキをかけ、姫路駅を昼夜を問わず通過する軍用列車を送迎、湯茶の接待をする。私（渡辺）は市を代表して腕章をつけて奉仕した。

また市葬に列し、各地区、各家の葬儀にも代理として参列。

【寺社参拝】 松原助役さんの発案で、戦争必勝祈願と、体を鍛え、史実をさぐるため日曜に広嶺、書写、増位、鹿島神社、石

の宝殿、曾根へ。

参拝する希望者をつのり参加章をわたし奨励する。
(渡辺弥市)

学生は勤勞奉仕

昭和十三年、私は姫中五年生、授業日に学校の行事として麦刈り奉仕に行くことになりました。勤勞奉仕はこの年から始まりました。食料増産が目的で、手伝ってほしい希望のある農家へ行ったようです。いくつかの班

姫中の奉仕作業

昭和一四年

六月一三日（月）、一三、一四日

麦刈奉仕作業、各方面に一斉に出動す

1 姫路市（水上、砥堀、城北、安室、高岡、荒川、手柄、城南、城東町）四百名

2 飾磨郡（花田、谷外、曾左、）三〇八名、農家出身子弟三一名

3 神崎郡（豊富、香呂）三九三名、見学者三五名

『姫中・姫路西高百年史』

上 姫高生の稲刈り

『ああ白陵の春の宵』

下 姫中生の小麦かち

『姫中・昭一四』

五十回生卒業アルバム

に分かれていたので、私は水上方面の班に入り西中島の農家へいきました。

奉仕作業は午後三時頃まで、その間先生の巡視があります。帰宅して、それから家の手伝いです。近所で親しくしていた先生に父が

「農家の子が自分の家のことをしないで、よその手伝いに行くなんて」

と話していました。新しいころみには、そんな矛盾もありました。

奉仕を受けた農家は

「町の子が手伝いに来てくれるのは良いけど、(ちらかすので)あとの仕事がかしにくい。」
とも言っていました。(矢内 澄)

昭和十四年三月三十一日、文部省は

「夏季又ハ冬季ノ休業中ノミニ限ラズ、

随時之ヲ行ヒ、出欠点検ヲ爲ス等、正

科ニ準ジテ之ヲ取扱フコト」

とした。(『姫中・姫路西高百年史』)

昭和十七年一月 学徒出動命令 勤労作業

が多くなった。

昭和十九年三月 決勝非常措置要綱に基く

学徒動員実施要綱により中学以上の学徒 女子挺身隊 軍需工場へ。

昭和二十年三月 「国民学校初等科を除き、

学校に於ける授業は昭和二十年四月

月一日より昭和二十一年三月三十

一日に至る間、原則として之を停

止」されることになった。

(『ああ白陵の春の宵』)

戦争がはげしくなるにつれ、勉強の時間が少なくなっていくようすを簡単に書きましたが、もっとくわしいことは『姫中・姫路西高百年史』にあるので見てください。
中一、二年生は主として農作業、校庭も畑に耕し、三年生以上は工場へ出ていきました。

紀元は 昭和十五年は神武天皇が第一

二千六百年 代の天皇に即位され、国が始

まってから二千六百年になるというので行

事が国じゅうで行われました。神武天皇を

支那事变割引国庫債券

昭和一四年六月一三日発行

日中戦争の戦費にあてるもの。

タテ一八cm ヨコ二五・五cm

(安倍房夫 蔵)



◀大歳神社大鳥居完成

向かって

左の柱に 皇紀二千六百年記念

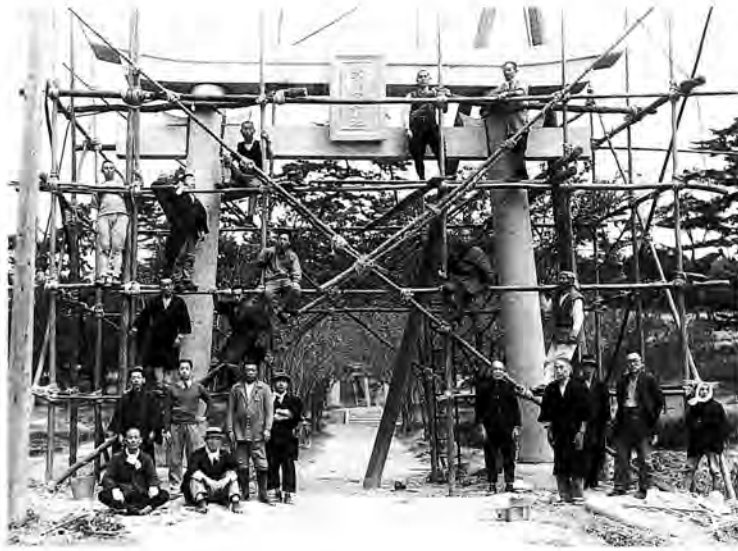
右の柱に 昭和十五年十月穀旦

氏子中 社掌 芹田 圭 謹書

石工 奥田

当時は油が少なくなり、松根油をとるため山の松の木を売った。その代金で建てた。

(渡辺弥市)



まつる檀原神宮を全国からの奉仕団で造り

あげたのはこの時ですし、十一月十日には

皇居前広場で式典が行われました。

「金鶏輝く 日本」

栄ある光 身に受けて

今こそ祝え この朝

紀元は二千六百年

ああ一億の 胸が鳴る」

という歌が歌われたのも、このときでした。

八代では大歳神社の参道に大鳥居を建て、

官立姫路高等学校は、同窓の戦死者の忠魂

碑を建てました。それは今も姫路短大内に

あります。

伊伝居・桑原神社にはシメ柱を、姫路城

内に松の苗木二千六百本を市内の各町総代

会が植えました。

運動靴が破れる

物資不足になっていちばん強くなっている記

憶は、昭和十五年のこと、買って来た白の

布地の運動靴が四、五日で破れはじめたこ

とです。布が絶えず折れ曲がるところが薄

昭和十八年にはタバコの値段が上が

り、替え歌がひそかに歌われた。

「金鶏」あがつて 十五銭

栄ある「光」三十銭

遙に仰ぐ「鵬翼」は

二十五銭になりました。

ああ一億の 民は泣く



▲国民服

昭和十五年十月四日の国民服令により着るようになった。軍服に似ている。ネクタイやワイシャツがいらないので簡単。式典の時は胸に記章をつけるだけでよい。写真は裏がえしの焼き付けなので、左右反対になっている。

に寝た。(本部は工業高校にあった)

(『姫中・姫路西高百年史』)

昭和二十年 一寮以外は全部兵営となり、

校門には衛兵が立った。(中略)

図書館の書庫に緒方校長以下数人の生徒が御真影、校旗などを護っていた。

(『ああ白陵の春の宵』)

校舎が兵舎に
戦争がはげしくなると、敵の本土上陸にそなえて兵隊をふやします。それだけ兵舎がたりなくなったので学校をつかうことになりました。

姫路中学校の教務日記に

昭和十九年十一月一日 すでに「第一四〇

部隊 校舎の一部使用(本日より)

昭和二十年六月四日 比叡部隊の一部、本

日より校舎転用 約四百名 兵隊講堂

で入隊、その間一時期兵舎をはなれ青山の

私も昭和十九年、四六部隊に教育召集

くわしい記憶がよみがえってきません。

このほか南八代町にあった姫路国民学校にも兵隊が泊まっていました。しかし当時は軍隊のことは秘密、秘密で知らされませ

んし、国民がみなあわただしかったので、

▲マッチのレッテル

実物は色刷り 写真では分らないが右端に小さな字で

「国防思想普及会編纂」

の字、中央に

「防火 防毒 洩らすな燈火」

と書いてある。(東塚 弘蔵)



教專寺の本堂に寝泊まりして、付近の山の松を切りだしたことがあります。その松の木は、防空壕に使うのだと戦友たちのなかで、ひそひそ話をしていました。”

(矢内 澄)

このようにして本土決戦の準備は進められていったのです。

防空

どの学校の屋上にも敵機を見張る見張台、防空監視哨かんししやうがつくられました。それは写真のようなものです。

姫路中学は男山かんしやうに作られた監視哨に三年生が監視に行きました。午前八時から午後八時まで十二時間交代、忙しくなったのは十九年末ごろからでした。



演習



監視所



本部

▲『ああ白陵の春の宵』より



男山防空監視哨
『姫中・姫路西高百年史』

以下、姫中生の思い出。

勤務につくと守則しゆそくを聞かされる。

「一、監視員は絶えず上空を監視……元
気のよい声があたりの冷たい空気を震わせ
る。交代してから十二時間、通信、立哨、
休憩の三班に分けて勤務する。哨舎しやうしや内には
敵機の図が無数にはられている。

立哨がすむと休憩である。短い時間では
あるが、その余暇を惜しんで教科書を開く。
勤務の日は、その日の授業がぬける。だか
ら勉強しないでよいのではない。」

（『姫中・姫路西高百年史』）

さて八代の町内会では、防空に関する「群
長」、「伝令係」、「防空監視当番」をつくつ
ていました。写真に見る木札がそれを物語
っています。

また防空訓練をたびたびしました。第四
次の資料が残っているのでそれを見ると、
警防団がおおいに活躍しています。

各家は電灯を消し、砂、水など火事にな
ったら消す物をいつも用意しておくことにな
っていました。

このほかバケツリレーをして消火訓練を
しました。

白衣の勇士

戦場で、傷ついたり病気になるって入
院している兵隊のこと。白い着物を
着ていたのでこう言う。



マッチのレットル（東塚 弘蔵）

警防団の人々

いま思い出せるお名前は

田中幸一郎 砥堀岩吉

新司光三郎 坪田豊吉

（姫路市の警防団長は

宇多川旅館当主）

昭和一四、八、二四

内務省函一〇八号 家庭防空群

昭和一八、七、一 内務省通牒

隣組防空群

指揮統制は警察で

群長・伝令係・防空監視当番の札

勤務につく時間が二種書いてあるのはどう
いうことか。
午前六時から翌午前六時までと、
午後八時から翌日午前六時までの二つ。
二四時間勤務は実情にあわなかったため、
夜間の十時間だけに改めたのかもしれない。

タテ9 cm
ヨコ3 cm



タテ15.2 cm
ヨコ4.8 cm



表

裏

少女倶楽部付録『少年団手帖』5-6年女子用 昭和18.4発行

空襲に

いつ空襲されてもあわてないや
う、私たちが国土防衛の戦士とし
て、次の心得をしつかり身につけ
ておきましょう。
まづ防空用具を、
るやう十分用
意しておくこ
と。「防火水槽」
「砂袋」火た
たき」などを
はあなた方の
手で、いつも完全なものにしてお
いて下さい。「防火水槽」に、た
えず水を一杯はつておくのは、ぜ
ひ皆さん方の手でやりませう。「防



火頭巾」などは、自分のものも
ちろん、お家の方のは、ぜんぶあ
なた方が作つてあげるやうにしま
せう。材料は、ありあはせのもの
で工夫したいですね。「砂袋」は、
うっかりすると砂のしめりのため
に、いたんだりやぶれたりします
から、時々なほしておく必要があ
ります。これも私たちの手でやり
ませう。
さて、いざ空襲となれば、お家
の方は皆、それぞれの持場につい
て、爆弾や焼夷弾の落下にそなへ、
消火や延焼防止の任務につくので
すが、私たちは、お家にある時な

この心得

ら、大人のじやまにならないや
う、小さな子供を待避させること
などをやりませう。
もし、通學の途中空襲にあつた
ら、學校が近
い時は學校へ、
お家が近い時
はお家へもど
ります。家に
も學校にも、
かけこめないやうな場所になら
せう。その近所の適當な家につか
ひませう。そして、いざといふ時、
このへんならこの家へといふこと
は、ふだんから考へてゐて、その



お家の人に、おねがひしておく
よいです。
又、待避するやうな家もないと
ころで、たとへば野原や空地で空
襲をうけたら、溝やくぼ地を利用
し、それも出来ない時は、目と耳
をおさへて、すばやく地面に身を
ふせることを忘れないで下さい。
とにかく、以上のべたことも、
ただ知つてゐるだけでなく、しつ
かり身につけ、いつでも實行でき
るやうにしておき、いざといふ時
は、あわてずさわがず行へるやう
にしませう。

シール (東塚弘蔵)



昭和十四年秋、毎月一日を「興亜奉公日」(アジアをおこす)とさため、梅干弁当、神社参拝、宮城遙拝をおこなった。

和紙にカーボン紙をはさみ複写したもの。各家に配ったようだ。

第四次防空訓練要領

警報種別	傳達方法	戦況現示	家庭ノ準備
警戒警報 (百旗ニ黄ノ短冊 兵ニ庫具ノシ)	警防團員ノ傳達	飛行機ヨリ發射スル左 記信號拳銃彈ニ依ル 晝間、黄旗又ハ黒旗 夜間、赤色以外ノ 吊星又ハ流星	各家ノ庭ハ非常準備 ヲ爲ス(服装、砂、水、門 燈、街路燈ハ消ス、必西女子 點燈ハ戶外ニ漏レサル様)
空襲警報 (赤旗ニ黄ノ短冊 兵ニ庫具ノシ)	サイレン一分間以上 連続ノ一ノ一 十回以上 電燈ノ點滅	假設敵機ハ發動機ニ 個以上ヲ以テ示ス及水上 機飛行機(吹流ヲ附セス) 夜間ハ翼燈ヲ點ス 爆撃、瓦斯彈及焼夷 彈ハ警防團員ニ示ス	各家ノ庭ハ非常準備 ヲ完了シ待機ノ姿勢 ニ移ル 電燈ハ全部消ス 却要スレハ見張ヲ爲ス
空襲警報解除	サイレン一分間以上 空襲ノ虞ナキ場合		
警戒警報解除	警防團員ノ傳達		

本土空襲 昭和十九年（一九四四）七月 サ

川西爆撃 イパン、グワム、テナシンの島

じまがアメリカ軍に、つきつき占領されて
いきました。これらは日本の南約三千海里
にあります。

B 29の爆撃機は爆弾七トンを積んでも九千
四百海里飛べるといいます。アメリカは夜を
日についてブルドーザーで飛行場を作り、
はやくもその年の十一月二十四日、サイパ
ンを飛び立ったB 29が東京へおそいかかり
ました。

翌年一月、カーチス・ルメイ将軍がマリ
アナ島の第二航空兵団司令官になります。
この人はドイツのハンブルグを無差別爆撃
した人で「日本では都市にある多数の小工
場が軍需生産をしている」というのが焼き
払いの理由、焼夷弾攻撃を始めます。二月
二十五日、密雲とぎす雪の日曜日の東京大
空襲を皮切りに、ジュウタン爆撃が始まり、
五月までに五大都市、六月からは十万人、
十万人の五八市がやられました。

姫路は六月二十二日、午前十時半から、

京口駅の東にあった株式会社川西航空機姫
路製作所がB 29により爆撃されました。そ
のときのようすは、いろいろな本にかいて
あるので、ここには記しませんが、八代か
らもよく見えました。

「家の門にこしらえていた防空壕を出た
り入ったりして見ていると、東の空を北へ
行くB 29が黒い爆弾を四、五コずつ落とす
すこししてザー ザー ザーと不気味な音
しばらくしてドーン ドン ドーン。真黒
な煙が空へのぼっていく。その音は地響き
といっしょになって腹の底までゆるがす。
屋根瓦もずり落ちるんでないかと思った。」
（矢内たつる）

さいわい八代への被害はなかったのです
が、戦後に屋根ふき替えをする家が多かつ
たのは、これが大きな原因だったのでしょ
う。

▲「日本の歴史」30 小学館

「日本の歴史」7 ほるぷ出版

本土空襲のはじめ

昭一七年（一九四二）四・一八

日本初空襲 ハルゼー中將率い
るホーネット、エンタープライ
ズの二隻の空母からノース・ア
メリカンB 25（東京へ）、横
須賀へ）、名古屋、四日市へ）、
神戸へ）。ドーリットル中佐ら

中国、ウラジオストックに着陸。
不時着の四人を日本軍が捕える。

昭一九年（一九四四）六・一六

中国の成都からB 29が北九州を
爆撃 七機撃墜。

昭一九年（一九四四）一

最初のサイパン発B 29の本土へ。

昭二〇年（一九四五）三

このころから艦載機がげしく
飛来する。

B 29 Bはホミング（爆撃）

29は開発番号

ボーイング社製

一九四二生産をはじめ。

川西航空機姫路製作所

姫路市 城東町京口台 元 天神町 四九

元日本毛織株式会社姫路工場跡に

昭和十七年七月一日 発足

同十八年四月 一号機が完成

『姫路空爆の記録』109 P

姫路製作所ではN1J1水上戦闘機を製作。

これは三十年に改良され、機関砲八門をつむようになった。(姫老大生 堀井英和)

川西航空機では海軍局地戦闘機「紫電改」を、西宮市鳴尾の本社をはじめ甲南、姫路などの各工場で作っていた。

川西航空機では一機完成することにスピーディーで全工場に「軍艦マーチ」の曲を流して完成を祝っていたが、昭和二十年六月になると工場に「軍艦マーチ」が響き渡っても、出来たのは胴体に翼をつけただけで、エンジンはなかった。

全国十二の航空機製作所は全部だめになり、残るのは川西の姫路工場のみであったとのことである。(姫老大史学科文集『八丈』7「姫路空襲のころ」松本荒市)



川西爆撃

二十二日 十時半頃 B 29南方より五波の攻撃 推定二十機 投弾数 六百発と推定。

『姫路空爆の記録』109 P

播但線の機銃掃射

昭二十年(一九四五)三月十九日 十三時六分、仁豊野発の列車が北進中に撃たれた。死傷者約四十八。『姫路空襲の記録2』

「当時学生で須賀産業に動員で行く。鉄道沿線の道でグラマンの機銃掃射にあい、列車の下へもぐりこんだ。血みどろになった怪我人がたくさんいた。」

(浜田)

焼夷弾攻撃

さきの川西空襲から十二日目、暑苦しい夜がふけておりまし

た。七月三日午後十一時四十分頃、ラジオが

「敵機が室戸岬の洋上を北進中」

「四国上空を北進中」

と伝え、警戒警報、空襲警報があいついで発令

「ちかく姫路がねられるだろう」とのうわさが流れていたので「いよいよ来たか」と直感。自家製の防空壕に入る人もいたが、

多くは八代山や梅ヶ谷方面へ避難して行きました。野里方面の人々も城北橋を渡り、

列をなしてこちらの方へ退避してきます。やがて爆音が聞こえ、姫路の中心部上空

で照明弾の投下直後、ヒュー ヒューと不気味な音をともなつて焼夷弾が落とされ、

紅蓮の炎がみるみるうちに上空にひろがっていききました。八代から見ると姫路城の黒

い影のむこうに炎が狂乱しています。

八代へもいつ落ちてくることか、不安な時がすぎていきます。そのうち景福寺山の

上空から数機が城の北側へ侵入、ついに八代で十五戸（今の南八代町一戸、御茶屋町十戸、富士才町四戸）の被害がでました。

まず八代周辺のその時のようすをみましよう。

*野里方面は野里小学校、梅ヶ枝町遊廓、伊伝居新道、高木方面に火災が起こった。

私は梅ヶ枝町に出勤、防火にあたった。野里小学校や梅ヶ枝町遊廓は全焼、伊伝居新道では高倉酒店が焼ける。

（「姫路空爆の記録」 屋村為蔵）

*野里小学校南西角の少し西、濠端に、焼けていない一軒があります、それが私の住んでいた家で、当時は両親と下宿していた

姫高生が住んでいました。私は当時軍隊で家にいません。家には焼夷弾三個、東の空

き地（戦時中は空き地）に二十個ぐらい落ち、空き地の作物は全焼しました。西隣の家が

焼けて私の家の壁板が焼け始めましたが、いずれも三人でなんとか消したとのことで

した。

（田島 満）

六月二二日の空襲

呉、玉島、姫路、明石、各務原へ計四一〇機

『日本大空襲』原書房

七月三日の空襲

姫路、知覧、高松、高知へ

母と子で見る 日本大空襲

*七月三日の夜、警報が発せられると金山へ登る余裕もなく城北練兵場へいつせいに避難しました。その時の格好は、綿いれの防空頭巾を肩までスッポリと被り、足元はモンペにワラゾウリといった有様でした。今にして思えばずいぶんとこっけいな姿でしたでしょうが、その時は本当に死にもの狂いだったわけですから誰も笑ったりはしておれませんでした。

灯火管制で真っ暗な空をまるで花火が尾を引いて流れるように、焼夷弾が次々と落ちてくる光景は、妙な言い方ですがじつに美しいものでした。東洋紡績に落下した時など逃げるのも忘れて思わず美しいなあ、と立ち止って眺めたものでした。伊伝居あたりには落ちるときには、まるで自分の頭上にふりかかってくるような気がしたものです。自分の家が炎をあげて燃えているのを眼の前にしても何もできませんでした。

(てがら) 姫路老人大学史学科文集―金原つる子

八代の被災

では八代での状況はどうだったかを見ることにしよう。

1、船場川以东

*いつも空襲警報発令の際は、市内居住の水道課職員約十五名は守備に出動していたものが、当夜(七月三日)の出動職員は常勤のポンプ室職員二名と、ほかに三名ほどで、故加古二郎、故大塚文治、堀内幸の三人であつたと記憶します。

焼夷弾は水源地構内に多数投弾され、燃え上がる焼夷弾を三名のものが「タタキ」と称するもので一個いっこを懸命にタタキ消し止め、水源地の焼失を死守いたしました。

(姫路空爆の記録 堀内 幸)

*主人(日方勇)は警報とともに内町の三八銀行に出勤。そのあと焼夷弾で家の東の板塀がもえだしたので一人でそれを引き倒しました。けれど東の借家(八代字富士才七五)には直撃弾、一軒だけの被災で終わらせました。後日、姑は

「あなたは若いのに、よくやってくれた」



▶米軍投下物(糸田秀雄蔵)

焼夷弾攻撃のあと八代字町裏六九の一の田(町裏水源地の西)に落ちていた鉄製品。径、三・五cm 高さ、一・五cm。中心に二段の穴があり、小さい穴は底まで貫通している。自衛隊にも照会したが、何であるか分からない。

これと同じような物が南八代町へも、千代田町の三菱電機構内にも落ちたと聞くが、同形のものかどうか、今となっては確かめようがない。

と、いつもほめてくれました。東の田んぼへも、水源地へもたくさん落ちたんでっせ。

(日方郁恵)

*警報がでたのでお茶ノ水橋(鉄筋コンクリート製)の下へフトン一枚持って避難した。近くの人何人かいた。空襲がおわって家に帰るとなんだかこげ臭い。しらべてみると、南の庭に軒先から三層とはなれてない所に焼夷弾の鉄製の筒が突きささっていた。

(橋本長治)

*当時、神戸に住んでいた娘とその子三人、姫路市内に住んでいた孫一人、計五人が疎開で同居していた。孫の一番上は国民学校の低学年。発令とともに小さい孫たちを乳母車に乗せ、水筒を持たせて「そら早よ山へ行け行け」。老夫婦で家を守る。

田植えの終わった船場川の東の田(八代字富士才七五六)へ二、三個落ち、線香花火のように飛び散っているのが門の防空壕から見えた。

(矢内市次郎)

*榎橋(今は坊主橋)の下へ避難していた。

午前二時ごろと思う。最後の飛行機が八代へ焼夷弾を落とした。北百部の城北橋東詰の家の板塀が焼け始めた。避難して行く数人がバケツリレーで消し止めた。(安倍房夫)
*空襲のすんだ四日朝、田の見回りに行ったとき、水源地のすぐ西の田(八代字町裏六九一)で父が写真のような物を拾った。前日まではこんな物は何もなかったのに。たぶん米軍機から落としたものだろう。

(糸田秀雄)

*水源地のすぐ北(今のメゾン富士才の地)は、まだ田植えがすんでいなかった。この田へ爆弾が落ち大きな穴(徑十ほど)があいたので、埋める手伝いに行つた。(坪田重蔵)
2、船場川―大野川間

*船場川のすぐ西(八代字御茶屋三七四)へも一発落ちてきた。父と屋根に上がって消し止めました。

(清瀬十代)

*記念碑の北すじ向かい、西端の家の腰板に火がつき軒まで燃え上がったが消し止めた。飛火だったのだろう。

(馬場良男)

警戒警報發令中

空襲警報發令中

▶警報表示板

(豊富町神谷・細野)

山本敏弘氏(田盛)

細野の村の商店の軒先に掛けて注意をうながしたものの、一枚の板の表裏に書いてある。

警戒警報は青地に白字

空襲警報は赤地に白字

*赤鹿稲荷のすぐ東の田へも爆弾が落ちて大きな穴があいた。

(坪田光宏)

*私の家(八代本町一丁目15番29号)の庭に一つ落ちた。軒下に飛び散った火を、疎開で来ていた親戚の者と叩き消した。鉄の輪も落ち、庭に穴があいた。

(内山雅咲巳)

*八代銀座交差点付近の路上と、今のラッキーパーンのすぐ北の畑に落ちたが、ともに不発弾だった。
(田中護之)

*私は今の吉田酒店の前の防空壕にいた。最後の波状攻撃で御茶屋にも落ちてきた。

今の「こよし」(菓子店)の場所にあった家(東光寺の東)に直撃、私の家の手押しポンプで水を汲み、東光寺垣内から駆けつけてきた人々と類焼するのをふせいだ。しかし少し東北の火は手をつけられなかった。炎上十戸。
(黒田正夫)

*「こよし」のまえの家が燃えたとき、バケツリレーで水をかけた。この家は焼けたが、隣への類焼はくいとめた。(坪田重蔵)

*東光寺山のふもとに退避していたが、いそいで家に帰ってみると、東の方のお宅が燃えている。すぐ前の川から水を汲んでかけたが、それ以上どうすることもできなかつた。
(中山作太)

*私の家(白川裏で以前水車営業)の下の排水溝(県立姫路紡績の水車排水溝)に家財道具のう

ちだいなものを入れ、警報が出たときは

そこへ入った。七月三日の夜は排水溝のなかまで明るく人々の顔もはっきり見えた。

みな「南無阿弥陀仏 ナンマイダ ナンマイダ」
(田原つきる)

*男山の北の道へも二個落ちた。鉄板も落ちた。
(土居いそじ)

3、大野川以西

*姫路国民学校の校舎へ直撃弾が一発、でも不発だったので助かった。校庭へも数発落ち、直撃弾で兵隊が一人死んだ。

(岡本文彦)

*姫路国民学校南西角の家は、戦時中の資材が乏しいなかでの新築だったが、焼夷弾で焼けてしまった。

また同校の東の道に、二、三発が火花を散らしていた。その東方の田で漬物のおもしにするほどの円形の鉄のかたまりを駒田善太郎氏が拾ったと聞く。
(飯塚重三)

*七月五日の朝に生野から鉦山に勤めている叔父が来姫し、祖母と私と弟妹は生野に

八代は安全

日絵の写真のように、当時は家も少なく、市街地から見ると安全だと思われていたようだ。

『姫路空爆の記録』より

*空襲警報発令と同時に妻や長女を八代の親戚へ逃げさせ、戦後は家族分散、八代や蒲田の親戚を頼っての居候生活を余儀なくされた。

(豎町・山崎嘉吉)

*八代の方は大丈夫、家の方は焼けているらしいとの知らせで、親戚の田中認次様のお家にたどりつきました。
(俵町・山野かつ子)

*母は広島へたつ前、もし家が焼けたら、八代か竜野町の知人の家へ行くように。(北条口・細田田鶴子)

姫路の被害

七月四日 死者 一七三人

重軽傷 一六〇人

全半焼 一万二八〇戸

被災者 四万五二八二人



「姫路最後の日」 飯田 勇 画 (太市・飯田直美氏 蔵)
 紅蓮の炎が空を埋めつくしている。手前の八代方面からも炎が上がっている。

▶物資節約のため、マッチの軸も短くなり、箱も小さくなった。「一億一心」と大きく書いてある。左下に「(公)貳個参銭」、(公)とは政府がきめた値段のこと。
 (ともに東塚 弘蔵)



▶世界(八紘)を一つの屋根(二字)の下にしておさめるという意味。昭和十五年七月二十六日、近衛内閣が決定したわが国の国策。
 マッチのレットル (東塚 弘蔵)



疎開することになり、叔父と歩いて生野へ向かった。八代の姫路国民学校の前の道路に焼夷弾の筒が深く突きささっているのと、学校の板塀が黒く焼けこげ、近くに消防車が一台焼けて放置されているのを見かけた。

（『姫路空爆の記録』 糸田恒雄）

以上話を聞くと、八代も安全な所ではありませんでした。

長いようでもあり短いようでもあった無我夢中の五時間の空襲も、白々と夜の明けるところ、戦果を見定めるかのように飛来したB29を最後に警報解除となりました。

八代西之町
八代の戦災死没者

高井寛二 藤原角次 三木辰雄

戸川藤太郎 〃 サヨ 〃 宮子

高井洗三郎 〃 宏子 河本貞次

八代南之町

吉江トミ 池内はな 〃 節子 〃 文子

市役所提供 完全でないがこの資料しかない

『姫路空爆の記録』
いっどこで、ということも分かっていない。八代への攻撃があった七月三、四日の話ではなさそうだから、川西爆撃かその他のところで被爆なさったのだろう。ご冥福をお祈りします。

謎の飛行機 川西空襲の直前、一機日本の謎とける 飛行機が姫路の上空に来て翼を振りながら旋回したあと、東北へ飛び去った。じつに不思議な飛行機だった、とはいままでもよく聞かれた話です。平成元年刊行の『姫路空爆の記録2』にその飛行士田島少尉（北八代二丁目）の手記があるので転載します。

故郷の空に 田島 満

第一集を発刊と同時に読ませて頂きましたが、茫然と復興の間を走り回っていた当時は、迎撃戦闘員としては名譽なことでもないで本稿のことは、なるべくならば沈黙を通そうと決めていました。最近になって第二集を計画されていることを知

太平洋戦全国戦災都市
空襲犠牲者慰霊塔の銘

この塔は手柄山にある。姫路市の銘には

被爆年月日

昭和二十年六月二日

以降三回

死没者数

四九〇名

罹災人口

五六六七八名

復興担当者

市長 石見元秀

戦果を見定めるB29

『日本の空襲六近畿』

三省堂による

り、改めて第一集を読み直してみました。そして姫路爆撃の直前に小型飛行機が単機で飛来したことに關する疑問が市民の記憶の中にわだかまっていることを読み、また、中学時代の友人にもすめられて、躊躇の思いを抱きながらも一応報告させて頂くことにしました。

昭和十一年六月二十二日、快晴、

早朝から飛行隊には警戒戦備乙の指令が出て、私の所属する戦隊では私を含めて数機（陸軍三式戦闘機「飛燕」）が大阪及び和歌山方面の哨戒飛行にあがっていました。

その後、戦備甲になり戦隊主力も発進しましたが、基地（伊丹飛行場）を発進してから一時間程経過して、敵機の進路は潮岬方面でなく四国方面に向かっている模様であり、従来の阪神空襲のコースとは異なっているように察しられました。

しばらくして、高知上空を通過、姫路方面に向うものの如しの情報で基地より入る、戦隊は退避基地に着陸せよとの事でした。

私の機は燃料が残り少なくなっていて、残念ながら迎撃は困難な状態でした。

防衛担当空域からは外れるのですが、故郷の姫路のこととてひどく気になり、矢も楯もたまらず姫路に向かい、敵機が瀬戸内海に入ったことを無

線で聞きながら、とにかく姫路上空に高度四千位で進入しました。上空から見る限りでは警報が出ていのかどうか、防空態勢がとられている気が感じられないまま、また昼間の空襲のこととて恐らく爆弾攻撃であり目標は軍需工場と察して対爆迎撃が不能の際として、緊急事態発生時の通報手段として、川西製作所、山陽皮革、日本フェルトの上空へ、更に低空約三百（もつと低空だったかも）を南から北へ、反転して二回位、翼を激しく振り（飛行隊では戦闘開始等の際の列機への通報手段の一つ）ながら急旋回をしました。

来襲する敵機を確認することは出来ませんでした、が、依然として地上では防空態勢の気配がなく、いっそのこと敵機と間違えられても、機関砲の射撃でもと考えたりしましたがこれだけは思いとどまりました。もう高度をあげることは残燃料の關係で無理のため、やむなく低空飛行のままで三木方面の待避飛行場へ不時着しました。

大急ぎで燃料補給させながら西方を望むと黒煙が高く数条昇っているのが望見されました。イライラしながら燃料補給を終え居合わせた僚機を誘い姫路上空へ……、既に爆撃は終わって敵影はどこにも見えず、せっかく身を渦中に投じながら何の真贋もかなわず申訳ない気持一杯で、せめ

謎の飛行機

私は当時城東国民学校五年生。登校するとまもなく警戒警報、帰宅を命じられ、帰宅後まもなく空襲警報、間をおかず友軍機が空を舞った。何を意味するのか今もわからない。五分とたたぬうちにB29の編隊が南の空に見えた。

『姫路空爆の記録』 七九P

私たち三年生は、いつも聞きなれた警戒警報には頓着せず、三時間日の授業を受けていました。そのとき突然、軽飛行機が一機、血相をかえたように西の空を低空で数回旋回し、どこかへ去っていききました。そして次の瞬間、それと入れ違いに……

『百年誌』 一四〇P

姫路市立谷外小学校発行

ても被害の軽少ならんこと祈りながら上空を一周して伊丹基地へ戻りました。

以上が当日の私の姫路上空での行動でした。今考えると当時戦争中の空軍の慣行と民間のそれとがこんなに連携されていないとは意外でした。戦後、地上での過酷な惨状を見聞して、今でも時折夢に見て身体が震えるのを覚えることがあります。被爆者の方々のご冥福を心からお祈り申し上げて稿を終えます。

陸軍特別操縦見習士官二期生

昭和十九年七月～二十年八月

陸軍飛行第五十六戦隊所属

伊丹飛行場勤務 三式戦「飛燕」搭乗

現住所 姫路市北八代一ノ八ノ一六

（「姫路空爆の記録第2集」）

昭和二十年八月十五日の玉音
放送で戦争が終わり、新時

代をむかえます。放送は雑音で、聞きとれませんでした。戦争が終わったのだと知らされると、誰もが「やれやれ」と言いました。このときの日本人の気持ちは複雑でした。

やがてジープが野里街道を走るようになります。乗っている米兵は、威張っているように見えます。走るジープは軽やかで、山でも登っていきます。四輪駆動というのだそうです。これではアメリカに負けるはず、だれもがそう思いました。

進駐軍は、被害のなかった城北の特科隊跡に駐屯しました。今の広嶺中学や自衛隊の所です。元の木造の兵舎はチョコレート色に、庭の石は白ペンキが塗られました。

「ここに勤めている近所の人から、ダチヨウです、と見たこともない大きなカンヅメをもらいました。あけて食べると、うまかったこと。アメリカは、こんなものを食べながら戦争しようたんかと思いました。」

（矢内澄）

物が不足していたのは、い

タクケコノ生活
うまでもありません。駅前では闇市、買い出し列車は超満員。インフレでもサラリーマンの月給は思うように上がらない。月、千八百円に統制されたので

五千、進駐終る

姫路

【姫路発】姫路への米運駐軍第六軍第三十三師團の第二次約三千名は二十六日午後一時五十六分をトップに同十一時十七分、翌二十七日午前零時三分、同三十一分同三時四十六分姫路の四個列車に分乗して次々に來駐前通りから夜の名城を仰ぎつゝ野里街道を経て市中行進し、城北兵舎（元中部隊第五十一部隊）へ入った。この部隊は歩兵部隊で隊長はコリンズ大佐である

また二十五日夜來姫路市仁徳野の須藤工場に入った砲兵部隊（部隊長スィニー大佐）の後継兵力は二十六日午後にも車輛を運んで数次にわたり明姫街道から來駐、別に午後六時三十二分と翌二十七日午前六時四十六分同八時二十六分の三回にわたりそれ／＼播磨線仁徳野駅著列車で同工場の兵舎に入り、ここに砲部隊五千名名の進駐軍は無事姫路の進駐を終った

千八君とも言った時期がありました。着物や服を交換に持っていかないと食料が手にはいりません。タケノコが一枚ずつ皮をはいで伸びていくのになとえて「タケノコ生活」といいました。

ドロボウが雨樋でも何でも、目についた金属類なら知らぬ間にもっていきます。農家では米俵、飼っている牛も、とられたことがありません。男でも四、五人あつまる。「配給米がもうちよつとあつたらなあ」と。兔のえさは草でよいし、子もたくさん生みます。毛皮もとれ、肉も食べられるので飼うのが流行しました。

「私は昭和二十三年に結婚、式は昔ながら我が家の座敷に親戚の者三十人ほどで。特別配給の酒だけでは足りないのです、知人からゆずりうけた濁酒に牛肉少しと兔の肉。兔の肉はアツサリしたものだ。」

新婚旅行は東京、日光へ行った。姫路駅から夜汽車で、翌朝横浜でやっと腰掛けることができた。その途中、便所から帰って

くると、ヤナギカケ（シヨウチュウナミリン）をいっぱいつめていた軍隊用の水筒がない。失敬されてしまったのだ。残念無念でした。」

（矢内 澄）

芝崎山の 松が茂っていた芝崎山は、昭和砂防工事 十六年ごろからマツクイムシで枯れはじめ、切り倒されて、はげ山になりました。雨で土が流れ、はげ山がますますひどくなり、テッポウ水でも出るとたいへんです。

そこで八代協議会は昭和二十二年十二月二十二日、砂防工事することをきめ、翌年三月十六日、大歳神社氏子総代の安倍房次、矢内市次郎は市役所農林課や営林署に交渉

寒い冬

戦後も冬は寒かった。男性は厚いコート、首にマフラー、女性は銀ギツネの、のちにはミンクの毛皮のコートにあこがれた。兔の毛皮も背中にあてておくと心地よい。いつしか暖冬になり、このころは冬でも軽い服になっている。



▲焼夷弾の筒で作ったジュウノウ

（北垣哲男 旧蔵）

姫路空襲のあと焼夷弾の八角の鉄の筒で作った。長さ二五・五cm、幅六cm。物が無いときだったので、筒を集めてこれを作る鉄工所があった。

火鉢の中の灰をかきよせるのに使った物。

を始めました。芝崎山の西斜面一町五反余は大歳神社の所有地です。(以下メモ帳より)

五月三日 砂防工事願書提出

七月四日 三好所長実地視察

七月二十八日 測量打ち合わせ

九月五日 工事打ち合わせ もてなしにイモ一貫

目

九月二十日、九月二十九日 工事

五十年近くたった今では眺望できないまでに木が茂りました。

鷺中から市高へ

姫路市立鷺城中学校(鷺中)は昭和十四年城内三の丸

の姫路高等小学校の跡にできた学校ですが、二十年七月三日夜の空襲で焼けました。校舎をなくした学校は勉強するところがありません。市役所もいろいろ考えましたが、二十一年四月十七日から八代にある姫路国民学校を借りて二年生以上がはいりました。しかしこれはわずか五月四日までで、焼け残った兵舎に移って行きました。戦後の学校の混乱ぶりがわかるでしょう。



姫高の玄関 五十年史『清明』
昭和45年の火事で手前(南)から玄関まで焼けてしまった。

昭和二十二年、六・三制により姫路国民

学校がなくなつたので鷺城中学校は新制の

姫路市立高等学校になり、略して市高とい

いました。その後、旧制の姫高がなくなつ

たので昭和二十五年ごろから姫路市立姫路

高等学校の名に変わりました。

だが初めについた名は人々には忘れられ

なかつたようで、なごらく一般には市高と

いい、学校周辺の町には「市高前町」と名

づけられていました。

国民学校

同盟国のドイツにならつて昭和十六年から小学校は国民学校の名にかわる。二十二年もとの小学校になる。

姫路国民学校

姫路高等小学校は昭和十六年からこの名に変わった。

琴陵中学開校

昭和二十二年五月、新制の琴陵中学ができたが校舎がない。しばらく鷺城中学と同居することになった。

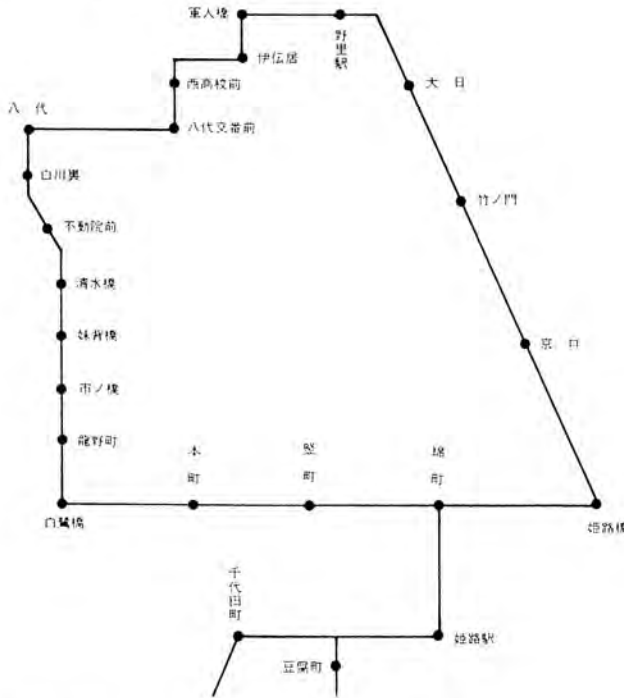
昭和二十二年五月一日 第一回入学式

同年五月一日 開校式(中庭で)

昭和二十三年六月 二十三年生は旧姫

高校舎に、二年生は四六部隊跡へ移転。

昭和21年12月17日



昭和四十五年十二月十五日の火災で南校舎、西校舎が焼けました。昭和四十七年辻井の新築校舎へ移りました。

市営バスが走る

昭和二十一年十二月十日、市営バスが全市に

走り始めました。八代付近の路線は次のとおりで、つぎつぎ多くなっていきました。



『八代銀座を走る市営バス』（昭和20年代 坪田恒雄 蔵）

元の交番所のあたりは商店が多かったので、誰いうとなく「八代銀座」といった。だが道には雨水がたまり、氷になっている。市営の「鼻ベチャバス」が北からきて、西へ曲がっている。（道から左が八代東光寺町、右が八代御茶屋町）バスのうしろが旧交番所、ずっとむこうに東光寺の白い土塀が見える。これは城北小学校学童の登校風景。

自治会が 「太平洋戦争がおわると町内会
芽ばえる に関する書類は置いていたらい
かん、とのことで全部焼いてしまった。」

(渡辺弥市)

昭和二十二年五月三日、政令第十五号に
より町内会は解散させられ、町内会長や補
助職員は、以後四年間同様の職務につけな
いことになりました。いわゆる四年間の追
放です。町内会なしで隣近所はどうしてい
たのだろう、これでは住民はこまります。
世の中がおちつきはじめると、近所で電気
代をだしあい街灯(防犯灯)をつけることも
します。自治会が芽ばえてきたのです。昭
和二十九年、姫路市に自治振興会が誕生し
ます。しかしこれは姫路市全体のこと、
町によっては発足の時期はもつとはやく、
まちまちだったようです。

では私たち八代ではいつだったでしょう。
私たち編集委員は図書館はもちろん市役所
へも行って資料を閲覧しました。そこで見
たものは

1、「姫路市自治振興会の歩み」

昭和三十六年十二月三日 市公会堂での
姫路市自治振興会十周年記念式典で十年
以上自治会長として受彰した人

北八代 田中 認次

八代富士才 福積金次郎

八代南町 小池 武平

八代新道 頼安福次郎

八代市高前 鹿森軍次郎

2、「自治会名簿」(ガリ版刷)

昭和二六、二七、二八年度 藤輪良三

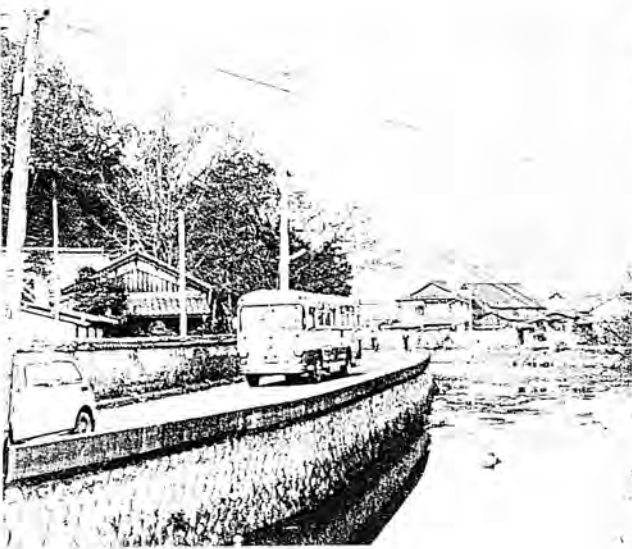
八代中ノ町自治会長 城北地区自治振興

会長

の二つで、これによって昭和二十六年以前
に自治会が出来ていたことがわかりました。
ところが昨年、もつとはつきりした資料
が見つかりました。それは次のページの写
真の感謝状です。これは昭和三十六年、八
代富士才町自治会長福積金次郎が副会長矢
内市次郎にだしたもので、そのなかに、

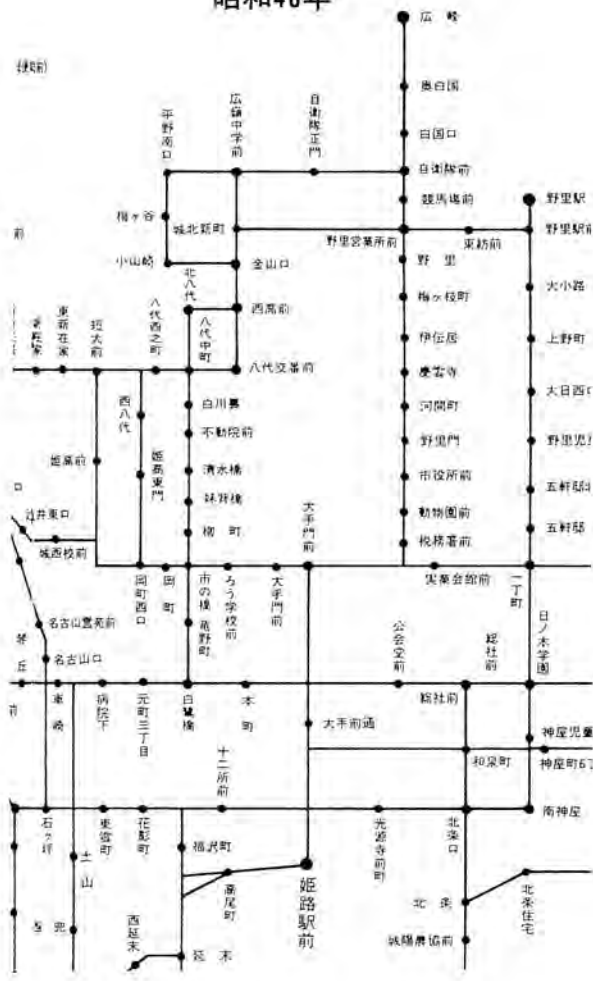
「昭和廿四年当町が町内会を結成……」

『姫路市営バス40年記念誌』 昭六〇、三発行
 左は山野井町・不動院と男山、川から右が今の八代本町・丁目。

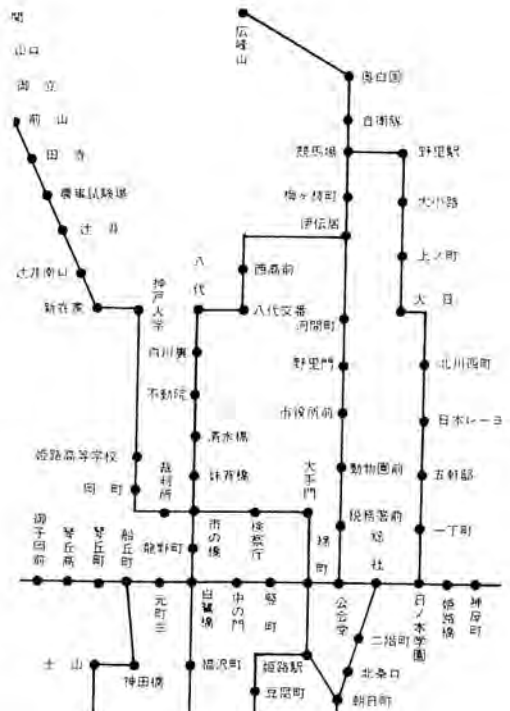


だが神姫バスの路線ともかさなる所が多
 くなったので協定を結び、昭和五十年四月
 から市営バスは八代付近では、岡町―南八
 代―短大前から書写方面への一つの路線だ
 けになりました。
 ▲昭和四五年ころ、男山下不動院前を走る市営バ
 ス（西高線）。

昭和40年



昭和31年 4月 1日





富士才町々内会長からの感謝状 タテ24.5cm、ヨコ30.5cm
 下の隅の印には「富士才町自治会長」と書いてある。当時は町内会長ともいい、自治会長とも言ったようだ

と書いてあります。これによって富士才町の誕生が昭和二十四年だったことがわかりました。その他の八代の各町も、この時できたはずです。

だがこれらの資料は誕生から十年余りも後のもの、二十四年ごろ書かれた資料はなにものでしょうか。また、どんな話し合いがあつて自治会ができたか、その時のようすも知りたいものです。

〈八代のできごと〉

- 15 大歳神社参道に石の大鳥居を立てる
城西5号線南部(城乾小の東)の用地買収
- 16 (1941)
- 17 城西5号線最北部97.2mができる
- 18 夜間中学を兵庫県立城北中学校と改称
11.15 八代派出所改築
- 19 城西5号線南部ができる
- 20 7.3 焼夷弾攻撃により八代にも被害がでる
- 21 中播食品(パン製造所)が御茶屋垣内にて
きる
- 22 3 姫路国民学校廃校
5 そのあと鷺城中、市立第二高女が移転、
琴陵中の仮校舎にもなり、開校式を中庭で
行う
- 23 9 芝崎山に砂防工事をする
6.16 姫路八代郵便局 御茶屋南西角に開局
秋祭に大屋台を戦後はじめてだす 鷺中を
姫路市立高校、姫中を姫路西高校、城北中
を城北高校とする

〈社会のできごと〉

- 紀元二千六百年式典 配給制始まる
- 太平洋戦争
- 1.19 B29姫路に飛来
 - 6.22 川西爆撃 8.15 終戦
- 県立工専が神戸から姫路市伊伝居へ移転
- 新制中学校できる
- 6.13 天皇姫路へ巡幸
- 自治会が、できはじめる
- 新制高等学校できる

(以下中巻 各町の年表につづく)

昭和時代(1—23)年表

昭和	〈八代のできごと〉	〈社会のできごと〉
1 (1926)		12.25 昭和元年となる 金融恐慌
2	5.8 平野巡査駐在所を八代派出所と改称 7 町裏水源地を起工 八代総代 坪田鉄次 市会議員 矢内市次郎 矢野平作	
3	八代総代 坪田作次 城西7号線(男山—西 高の西) できる 11 大歳神社の門と土塀をとり、上段の玉垣 を作る	最初の普通選挙
4	4 町裏水源地できる 兵庫県姫路夜間中学講習所を姫中に設立	
5	伝伏見天皇 <small>ひさひつみ</small> 離宮 <small>りきゆう</small> 址之碑 <small>しづゐ</small> できる	
6	城北51号線(さくら銀行—西高)の拡幅を 陳情(数年後完成) 兵庫県立姫路夜間中学と改称	満州事変
7		上海事変
8	3 山林1町を梅ヶ谷地蔵に売り渡す	
9	御所の清水に歌碑をたてる 戸数585 人口2525 このころ師範専攻科寮の大成舎が北八代一 丁目にできる	
10	城北52号線(雲松寺—東光寺)用地買収始 まる	
11		2.26事件 姫路師範学校廃校
12	4 芝崎山行者堂周辺に新西国霊場石仏を立 てる 4.9 神姫バスが姫路駅—野里を走る 天理教姫山分教会、伊伝居中ノ町から八代 新道へ移転	支那事変
13	八代総代 田中円次	
14	八代町内会ができる 会長 八木孫次郎 南八代に姫路高等小学校が城内から移転	